



出水教会でカトリック北薩大会

生まれた。これはモンテッソーリ教育でお仕事に励む幼稚園児の姿と重なって仕方がない。子供達はお仕事にチャレンジすることで自分を磨き、やり遂げた達成感から無意識のうちに自分を良いものと感じてゐる。そして子供の中に生まれた満足感は、他の子供に伝播して教室全体に落ち着きが広がっていく。教会の姿もこのようであるべきだと思う。聖霊を受けた弟子たち

は、自分の言葉で信仰を伝えることができるようになった。またそれまで怖れから人前に出ることができずにいたが、出て、自らの思いを言葉にするようになった。これが聖霊の力。私たちもアーメンと口にするたびに、私もあなたのように生きていきますという思いを新たにしていこう」

ミサ後には閉会式があり、堅信の恵みを受けた一人ひとりがこれからの抱負を述べた。その後は記念撮影があった後、受堅者と代父母に郡山司教からロザリオがプレゼントされ閉会となった。この日の大会には北薩地区にある五つの教会とレデンブートル会鹿児島修道院のある谷山教会から150人ほどの信者が参加した。

総会と研修会開催
教区修道女連盟

鹿児島教区修道女連盟
(エルハルド・ワルトラウ
ド会長) では、6月3日



種子島教会主任司祭・板尾泰英神父（高松教区所属）が7月4日（水）、司祭叙階25周年（銀祝）を迎

える。

栃尾神父は1953年10月15日に三重県熊野市に生まれた。1977年に豊島教会（東京）で受洗し1987年にローマ・グレゴリアン大学に入学した。助祭に叙階されたのは1992年10月、場所はラテラノ大聖堂だった。高松教区司祭として司祭に叙階されたのは1993年7月4日。その後司教館付き、江ノ口教会、桜町教会、新居浜教会で司牧し、2009年から鹿児島に派遣されている。

午後1時30分に始められた講演の中で郡山司教は、自らの司祭召命についてのエピソードを紹介するとともに、神学科時代にあった司祭候補者認定式での呼び出しに「アドウスム（私は

2017年の教区統計が

2017年の統計まとまる
信徒総数は8813人

受堅者の額に油を塗る郡山司教

ここにおりま
す」と答え、
一步踏み出した
時の心情を「神
からの呼びかけ
に対する返答だ
った。感動的だ
った」と述べ、
信者たちにも勇
気を持つて神の
呼びかけにこた
えて行動する生
活を送つて欲し
いとメッセー
ジを送つた。

2017年の教区統計がまとまった。それによると教区の信徒総数は女性5483人、男性3330人の合計8813人だった。この中から主任司祭が所在をきちんと把握できないでいる「居所不明者数」（585人）を除いた8228人が信徒実数となる。

昨年、天に召された人は122人。また新しく洗礼を受けた人は幼児23人、成人58人の合計81人だった。受洗者数、死亡者数の数が2016年とほぼ一緒であるのに、2016年に8927だった信徒総数が114減となったのは、2017年には転入者が少ない一方、転出者が大きくそれを上回ったためである。転出

者の内訳としては、教区内での移動が43、教区外への移動が22、その他の理由が68となっている。その他の理由で多いのが、小教区において主任司祭及び統計担当者が信徒名簿等で信徒数を確認した際に、実際は存在していなかった信者を本来あるべき数に合わせるために「その他の理由」での移動に含めたためと考えられる。

信徒実数から主日のミサの参加率を算出してみると24・3%、昨年の23・26%より若干増えはいるものの、主日のミサの参列者が4人に1人に満たないという現状にさほど変化はない。「主日のミサ離れ」という世界的な大きな波に

つまり飲み込まれていることは否めない。

ミサを大切にするという信仰の基礎作りには欠かせない教会学校を開いている教会は29ある小教区のうち13小教区。これは幼稚園生・小学生を対象とした教会学校の数字で、ここに通っている幼稚園生・小学生は146人。これが中学生、高校生となるとそれらを対象とした教会学校を持っているのは、中学生対象のものが29小教区中8、高校生で

7小教区。それぞれ29人、67人。思いの外、高校生の教会学校は充実しているよう。また求道者は教区全体で46人。2018年の統計でも成人の受洗者数の増加はあまり期待できそうにない現状と言える。

【2面に統計資料】

総会後の研修では、講師に那覇教区から押川壽夫名誉司教を招きテーマ「レキオス・うるまの島から発進するいくつかのしみ・平和」について学習した。

講演会後はザビエル教会主聖堂で郡山司教と押川名誉司教の共同司式ミサにあずかり、散会、それぞれの使徒職の場に帰って行った。【2面に押川名誉司教講話の感想掲載】

7月22日（日）

カトリック加世田教会

16151413
.....
00300030
祝賀会 記念式典 献堂記念ミサ 受付開始

南さつま市加世田本町32-5

0993 (52) 2303



沖縄の歴史と現状を学ぶ

ショファイユの幼きイエズス会

入来修道院 Sr.竹口るみ子

沖繩の歴史と現状を学ぶ

ショファイユの幼きイエズス会

入来修道院 Sr.竹口るみ子

沖繩の問題については、意識はしていても客観視しているところもあり、司教様から現地の生情報をもらうことで理解を深めるとともに身近な問題として、共有し、日々の奉獻生活、使徒

第一部で押川司教様は「いづくしみ」について、創世記から教皇フランシスコまでをたどり説明された。現教皇は、その著書でも「神の名、それはいづくしみ。イエス・キリストは御父のいづくしみの御顔」とキリストによって、神の御顔を見ることができるようになったとされている。

また旧約聖書は「いつくしみ」で埋め尽くされており、詩篇111:8がその代表。神の憐れみ、いつくしみへの賛美の定型句、神の救いの歴史が凝縮されている。それらを遺産として持つ教会には「神のいつくしみを告げ知らせる使命がある」と訴えられた。

※ヘブライ語の「憐れみ・いつくしみ」はらわたがうち震える」は、日本語には適した言葉がなく、沖縄・奄美大島の「チムグクル・チムナガサ・チムグルサ」が最も的確にそれを表現しているという。

その後は、——レキオス・うるまの島から発進するいくくしみ・平和」のテーマで沖縄の平和と福音宣教の歴史について聞くことがで

きた。レキオスとは琉球のこと、400年ほど前の大貿易時代の言葉。うるまの島とは、サンゴ礁の島の意味。

争とは縁のない平和な国で、南海の立地条件を生かし、アジア諸国との貿易で発展していた。ところが1609年の薩摩侵攻によってその平和が乱され、独立した国から「日本の沖縄」となり悲しみの歴史が始まったと、第二次世界大戦を経て現在の米軍基地問題に至る差別と負担に翻弄される沖縄の現状を話された。

また沖繩が日本の教会の歴史の中で、明治の再宣教の始まりに大きな役割を果たしていることについて言及され、パリミッシヨン会の方オレ、カード神父（後に日本・台湾の司教）の活動、苦勞について話された。

フォルカード神父は1844年に沖縄に上陸した。

これは日本が鎖国・禁教令下の時代にあつたため、沖縄での待機を余儀なくされたからとのこと。待機の間、神父は8000語に上る日仏辞書を作り、これがプチジャン司教など後輩宣教師のために役立ったという。その後も日本上陸を試みたものの長崎でも入国は認められず、船上でのミサで日本と台湾を「無原罪の聖母」にささげて沖縄に帰ったという。フランスに帰国したフォルカード神父は、私たちの修道会をはじめとする日本への修道女会派遣にも尽力されたとのことであつた。

講話の最後に押川司教は、鹿児島での司牧体験としてレデンプトル会の宣教師とのかかわりから楽しいエピソードを語り、結びとされた。

鹿児島教区教勢

2017年12月31日現在

教会名	信徒数		死 亡	信徒の 移 動		主日ミ サ参列者	洗 礼		堅 信	求 道者	教会学校 (幼・小学生)		教会学校 (中学生)		教会学校 (高校生以上)	
	総 数 () 内男性	不 明		転 入	転 出		幼 児	成 人			信 徒	総 数	信 徒	総 数	信 徒	総 数
阿久根	43 (15)	0	2	0	1	35	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
出 水	169 (63)	0	4	1	1	30	0	1	0	0	3	24	0	0	0	0
入 来	87 (28)	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大 口	138 (44)	0	7	0	3	25	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
川 内	302 (106)	14	2	16	29	60	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0
鹿 屋	265 (100)	36	2	2	0	70	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
国 分	177 (73)	4	2	1	2	30	0	0	8	0	2	2	2	2	2	2
志布志	97 (34)	0	1	0	1	20	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
垂 水	4 (1)	0	0	0	5	5	0	0	0	3	0	0	0	0	10	10
始 良	207 (92)	7	2	0	0	60	3	5	0	1	2	2	4	4	3	3
指 宿	94 (31)	0	0	2	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加世田	114 (56)	0	2	3	28	47	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
鴨 池	505 (205)	48	7	6	4	110	3	2	13	1	13	16	3	3	0	0
ザビエル	1034 (340)	187	13	8	8	250	0	14	3	15	32	32	9	9	6	47
谷 山	800 (321)	32	2	5	5	150	1	5	4	7	7	7	2	2	2	2
玉 里	243 (99)	15	3	0	3	50	0	2	1	0	4	9	3	3	0	0
紫 原	164 (65)	0	2	2	6	30	0	1	0	0	5	16	0	0	0	0
吉 野	278 (119)	54	4	0	5	40	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0
種子島	67 (28)	14	2	1	7	30	0	1	0	1	3	3	0	0	0	0
溝 辺	29 (15)	0	5	0	0	15	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
大笠利	530 (215)	54	5	0	0	100	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0
小 宿	310 (114)	0	1	0	4	60	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0
古仁屋	112 (28)	0	1	0	0	20	2	0	0	0	7	7	0	0	0	0
瀬 留	366 (148)	0	8	0	0	70	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
大 熊	566 (252)	8	12	7	5	200	2	2	7	0	10	10	1	1	0	0
古田町	735 (252)	40	5	0	0	150	1	3	10	0	2	9	5	5	0	0
聖 心	774 (297)	38	14	1	15	230	1	2	1	2	1	1	0	0	3	3
徳之島	424 (143)	0	14	1	1	50	0	5	3	9	0	8	0	0	0	0
和 泊	179 (46)	0	0	4	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	8813 (3330)	551	122	60	133	2000	23	58	56	46	91	146	29	29	26	67
							81				146		29		67	

[illegible]

奄力連が総会と研修 みことばの読み込み方を学習

6月10日（日）奄美カトリック女性連盟の第40回総会が古田町マリア教会で行われました。この日、七つの小教区から集まって来てくれた会員は160人、遠くは笠利小教区の80歳代の会員は「みんなに会えるのが楽しみ」と朝早くから来場してくれました。

午前中の総会では2017年度の活動報告及び決算報告、2018年度の活動計画案及び予算案などの決議を滞りなく終えることができました。

昼食をはさんで午後からは、この4月から小宿小教区に主任司祭として赴任された鈴木康由神父様から

「いのちへのまなざしを考える」という演題でお話を伺いました。

神父様のお話をお聞きして、私たちが当たり前の事として何も考えず聞き流していたイエス様のまことば、聖書の読み込み方を反省することでした。神父様は「聖書を字ずらだけで読むものではないこと、聖書が書かれている原語、時代背景、文化、場所、それらを理解して初めて神様の愛を深く理解できる」と詳しく話してくださいました。

会員たちも「目から鱗とはこのことだ」と、お話を聞いてイエス様に一步近づけたように感じ、安心して神

（文芸） 短歌



吉野教会 中江 均
祭壇を背に座す我の足洗う
司祭の御手に聖言葉をみる

鴨池教会 前田 儀子
おきざり草の花が目ざめて
咲く午後を椿は音なき紅を

「短信」

▼国分幼稚園に新園舎
昨年3月に旧園舎解体に取り掛かり、同年12月に新園舎建設を終えていたカトリック大隅学園の国分幼稚園（桃園智園長）では、5月26日（土）、落成・祝賀式を挙行了した。



司教執務室便り

園児たちの朝の祈り

かつて、ザビエル教会の助任司祭から吉野教会の主任司祭への転勤の際、前任の七田神父様が住むことになっていた司祭の家が未完成のため、引越しが叶わなかった。そのため、しばらく通勤ということになった。40代の半ばであったにもかかわらず、生まれて初めて経験する「通勤」がいかに疲れるものであるか身をもつて経験した。

この4月から、その吉野教会に隣接する吉野幼稚園の園長を務めることになった。主任司祭ではないので、当然、通勤ということになり、7時半に出勤する毎日が戻った。理事長、司教、園長の三足のわらじを履くことになったのを一番理解してくれたのが幼稚園のスタッフたち。お蔭で今のところ、午前保育ならぬ午前勤務という特別待遇を享受している。そんな手抜き園長を続けながら、子供たちの天真爛漫な姿や、大人の片鱗をうかがわせるような言動に思わず声を上げたりと、80余人の子供たちから元気をもらっている。そして、さすがに二カ月にもなると、「おじさ

ん何しているの」と言う子はいなくなつた。



そんな子供の園での初日、一番感動したのは子供たちではなく、8時の朝礼での祈りだ。「おはようございます」の挨拶のあとで、当番の先生が「皆さんで、朝のお祈りをしましょう」と声をかけると、一斉に両手を胸の前に合わせる。一呼吸おいて、「朝の祈り。神さま今日も新しい朝をお与えくださってありがとうございます。…」おそろく仏教徒の二人の運転手さんも背筋を伸ばし、しっかりと口調で丁寧な唱え、再び一呼吸おいて両手を下ろす。信者は一人しかいないのに、すっかり身についた祈りの雰囲気なのだ。

そんな話を何かの時にしたら、「この幼稚園でもしている」と一蹴された。あの頃、シスター任せで、朝礼の記憶すらないことが悔やまれた。ともあれ、祈りで始まり、祈りで終わる姿こそカトリック幼稚園。何やら希望が湧いてきた。ちなみに、幼稚園が掲げる7月のみことばは、ヨハネ15章から「互いに愛し合いなさい」。目標は「命育む」。職員や子供たちの中に御父の心が育まれ、宇宙の広がりを持つ誰をも愛せる心が育つことを祈るばかりだ。

第13回日本カトリック障害者連絡協議会

―横浜全国大会―

テーマ…互いの弱さを認め合い、共に生きよう
場所…聖光学院中学校高等学校
期日…2018年10月20日（土）～21日（日）
主催…日本カトリック障害者連絡協議会 カ障連横浜全国大会実行委員会

※パッシェの会では参加者を募ります。申込期限は7月31日。出席希望の方は頭島神父（070（54451）1419）もしくは谷山教会（099（268）2084）までご連絡下さい。参加する方向で進めています。

+KABAYAN SEKSYON+ Pagsasabuhay ng "Pagkadisipulo ng Magkakapantay"

Tuloy ang Simbahan sa Pilipinas sa siyam na taong paglalakbay nito patungong 2021. Sa pamamagitan ng isang serye ng mga taunang tema, isang masidhing pagpapanibago ang nakikinita para sa Simbahan. Nakatuon ang taong ito (2018) sa mga pari at relihiyoso't relihiyosa. Hindi ito nangangahulugan ang layko, na bumubuo sa karamihan ng Sambayanan ng Diyos, ay tinutunghayan bilang mga mababang uri ng Kristiyano; tandaan natin na ang buong taon ng 2014 ay nakatuon sa mga laiko.

Buhat ng biyaya ng ating pagiging mga binyagan kay Kristo, lahat ay pantay-pantay ng halaga sa Simbahan, bagamat mayroon tayong iba't ibang talent at gampanin. Tumpak na masasabing tayo'y magkakabahagi sa "pagkadisipulo ng magkakapantay". Lahat ay pantay-pantay ng dignidad bilang mga misyonerong alagad ni Jesus.

Pinagtibay ng kasulatan ng ikalawang Konsehong Batikano ng Apostolicam Actuositatem ang napakahalagang papel ng laiko. "Nagmumula ang apostolado ng laiko sa kanilang pagtawag bilang mga Kristiyano, at hindi magaganap ang Simbahan nang wala ito [apostolado ng laiko]" (1). "Sa Simbahan may iba't ibang paglilingkod ngunit may kaisahan ng layunin" (2). Ang lahat-maging laiko, pari, o relihiyoso o relihiyosa ay tinatawag upang maging banal at "ipahayag ang diwa ng mga banal na kapalaran sa kanilang buhay."

Ang lahat ng mga tumanggap ng sakramento ng binyag ay lahat tinatawag ng Panginoon Jesus na maging alagad niya o tagasunod na sumasaksi sa mga salita ng Diyos ang Mabuting Balita, na yan ang nagbibigay liwanag at buhay sa ating bilang mga Kristiyano. Isang karangalan ng bawat Kristiyano ang pakikibahagi sa misyon ng Panginoon Jesus na ipahayag ang Mabuting Balita sa lahat ng mga nilikha ng Diyos Amang makapangyarihan.

Katesis para sa Taon ng mga Pari at Relihiyoso (Fr.Dino)

会と催し

7月

1日（日）年間第13主日

3日（火）聖トマ使徒

▼頭島光神父霊名

4日（水）栃尾泰英神父叙階記念（1993年）

5日（木）聖体礼拝

7日（土）読書会・教区本部・16時

8日（日）年間第14主日

▼ブイジュ祭

9日（月）竹山昭神父叙階記念（1967年）

11日（水）坂谷豊光神父命日（2006年）

▼朴鎮亮神父霊名（聖ベネディクト）

12日（木）ザビエル上陸記念祭実行委員会・教区本部・19時

14日（土）村田源次神父命日（2007年）

15日（日）年間第15主日

16日（月）永山幸弘神父、アッシャー神父金祝、栃尾泰英

17日（火）神父、泉浩二神父銀祝ミサ・カテドラル・14時

21日（土）ユゼビウス神父命日（1979年）

▼正義と平和協議会・教区本部・14時

22日（日）年間第16主日

▼オリブの会・教区本部・14時

25日（水）▼木村敏彦神父命日（2008年）

▼聖ヤコブ使徒

▼福岡英雄神父霊名

▼カトリック幼稚園研修会・霧島国際ホテル・26日

26日（木）浜田盛茂神父命日（2013年）

29日（日）年間第17主日

【祈祷の使徒会】

福音宣教 教会で奉仕する司祭
日本の教会 難民・外国人労働者

福音宣教と信徒の役割

連合壮年会主催「森一弘司教講演会」感想

「森一弘司教講演会」が5月27日（日）、ザビエル教会1階ホールで行われた。主催は鹿児島カトリック連合壮年会で、120人の参加があった。

テーマは、「福音宣教と信徒の役割」で、鹿児島教区にとって喫緊の課題でもある。森司教の講演を通して、多くの参加者（司教・司祭・修道者・信者）が共に考え学ぶことができた。

森司教は、ゆっくりとした語り口で、時にユーモアを交えて約100分、参加者に語りかけた。多くの事が語られたが、ここではその一部を紹介する。

先ず教皇フランシスコが、今の教会をどのように理解しているかということ。「自己中心的な教会は、イエスを自身の目的のために利用し、イエスを外に出さないが、これは病気になる。」と。次にマルティニ枢機卿（ヨハネ・パウロ二世の後継者と言われた枢機卿）が死ぬ直前に「教会は疲れている。教会



講演する森司教

の官僚主義的な装置は多くなるばかりで、儀式と祭服はもったいぶったものに見える。」と語っていたこと

を司教は紹介した。日本においてもミサ参加者が減り、教会に若者の姿がない。なぜ教会は病気になるのか、疲れているのか？を考

える必要がある。この点について内側から納得して切り開いていくべきではないか、と司教は語った。

そして司教は、今の教皇の姿勢から学ぶべきことをいくつか指摘された。

教皇は、アルゼンチンのスラム街で司牧活動を行っていた。そこでシングルマザーを教会の枠の中で導くのは、彼女らの前に壁をつくることであつた。そこに教皇は痛みを感じたのである。また離婚者や中絶者への従来の教会の対応（教

え）に疑問を感じていた。その根底には教皇自身の信念があつた。「私が信じる神はカトリック信者の神ではなく、すべての人々の神である。」永く受け継がれ、今も、しばらくは

教えや掟では、イエスをそれぞれの生活や人生の中に見出すことは難しい。

更に司教は教会の歴史にも触れた。16世紀のルターによる宗教改革の背景や、その後のトリエント公会

議、その後の近代社会への教会の対応は社会を徹底的に断罪し、社会の営みを世俗主義と捉え、中央集権化が進んだのである。教会の礎となつたのは、ペテロを始めとした弟子たちよりも、イエスの周りに集まっ

た女性たちであつた。

後半は約50分の質疑応答を行った。会場から提出された質問に対して答えてもらう形で行った。質問は、

①信徒と司祭の関係をどのよう

②神学校の役割と責任

③福音宣教とは何か

④信徒の霊性とは何か

⑤福音体験の分かち合いをどのよう

⑥日本の司教団の「新福音化推進委員会」の評価

⑦信徒の役割は何か

など多様な質問が出された。時間の関係ですべての質問に回答をしてもらうことができなかった。この場でお詫びを申し上げます。今回の講演会に参加された方々にお願ひがあります。講演の内容と感想を家族や教会の人たちに話してください。質問をされた方

は、同じ質問を他の信者や司祭に投げかけてみることを勧めます。それによつて信仰の分かち合いができると思います。アンケートを記入された方々、ありがとうございました。

後半は約50分の質疑応答を行った。会場から提出された質問に対して答えてもらう形で行った。質問は、

①信徒と司祭の関係をどのよう

②神学校の役割と責任

③福音宣教とは何か

④信徒の霊性とは何か

⑤福音体験の分かち合いをどのよう

⑥日本の司教団の「新福音化推進委員会」の評価

⑦信徒の役割は何か

など多様な質問が出された。時間の関係ですべての質問に回答をしてもらうことができなかった。この場でお詫びを申し上げます。今回の講演会に参加された方々にお願ひがあります。講演の内容と感想を家族や教会の人たちに話してください。質問をされた方

KJP（鹿児島正義と平和協議会）通信 7月号

福島原発事故から7年経ちました。時間の経過とともに忘れ去られているような気がします。新聞・テレビなどのマスコミもあまり取り上げてはいません。私たちは「忘却の民」なのかと反省しています。紫原教会では、年に二回「福島産農産物」の販売を行っています。福島のことを忘れな

い、関わりを持ち続けようとの想いで始めました。NPO法人「福島やさい畑（復興プロジェクト）」で販売している農産物・加工品

康由神父の聖書教室(3)

律法の一点一画

ヘブライ文字から読み取る



マタイ福音書の中でイエス様は「律法の文字から一点一画も消え去ることはない。」と語られました（5・18）。一読しても違和感のない言葉ですが、この言葉の深みと面白さをヘブライ語から読み解いてみましょう。

さて、律法が書かれたヘブライ文字ですが、日本語のような点も画数はありません。「一点一画」と訳された言葉は、原語では「イオター一つ、あるいは小さな角一つ」と書かれています。

（お米・きなこ・地鶏くんせいなど）を教会バザーで販売しています。これらの農産物は、福島の約30軒の農家からの安全確認された商品です。

先日、「福島やさい畑プロジェクト」の担当者から手紙とニュースレターが届きました。福島の現状について、特に避難者の状況が次のように書かれていました。「昨年（2017年）4月に避難指示が解除され、今年（2018年）の3月には仮設住宅は供与期

間を終了となり、皆さん復興公営住宅等へ移りました。：12の市町村が避難しましたが、戻った方々は1／2割です。」戻った人たちは二つのタイプがあり、一つは復興の熱意がある方で、もう一つは家賃が払えないほど困窮している方々だそうです。戻って来ない8／9割の方々についてはどのような生活状況にあるのか想像するのも難しいことです。原発事故は、地域の住民を分断して、共同体を壊してしまいました。

また手紙には「福島は今も誰も「復興」という言葉すら口にしない人はいません。建物は新しくなっていますが、それを復興とは誰

も思っています。故郷を失ってしまった喪失感はお金や新しい家によって埋められるものではないからです。」と書いてあります。

私たちにとって大事なことが何であるのが示唆されています。生まれ育った地域において、人間と自然との調和が保たれ、人間同士のつながりを大事にする共同体こそが「故郷」ではないでしょうか。お金やモノ、経済成長の利益では置き換えられないものです。

もう一つ大事なメッセージが、今年の3・11に発表されました。武藤類子さん（福島原発訴訟団団長）の「福島に心を寄せる世界の皆さまへ」です。現在推進

す。イオターとはギリシャ文字の一つであり、英語の「I」に相当します。書くのが一番簡単なアルファベットです。では、「小さな角」とは何を意味するのでしょうか。ヘブライ文字で英語のDに相当するものは「𐤃」と書きます。また、Rに相当するものは「𐤓」と書きます。似たような文字ですが、右肩が角になっているのか、丸まっているのかによって区別されます。

ここで突然ですが、申命記には「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である」という非常に大切な言葉があります（申命記6・4）。ここで「唯一」と訳された言葉は「一つ」という意味であり、これを英語のアルファベットで表記するとA H Dとなります。この言葉の最後のアルファベットをRにする

モーセの第一戒から考えて、このようなことをユダヤ人たちが受け入れるわけはありません。要するに、ヘブライ文字の右肩の小さな角に気を付けないと全く違った意味になってしまう、ということなんです。こうしたことから考えると、イエス様は、唯一の神が与えて下さった律法は普遍であり、どんな小さなことでも等閑にしてはならない、ということを一捻り加えて語ったと考えられます。たつた「一画（一角）」に注意を払えるか否かが、真の神を信じることに通じるのです。もしかしら、日常生活に於ける他愛も思えることが、私たちの信仰生活にとつて大きな意味をもっているのかもしれない。



レーシュ



ダレット